

CSRレポート 2009 DATA BOOK

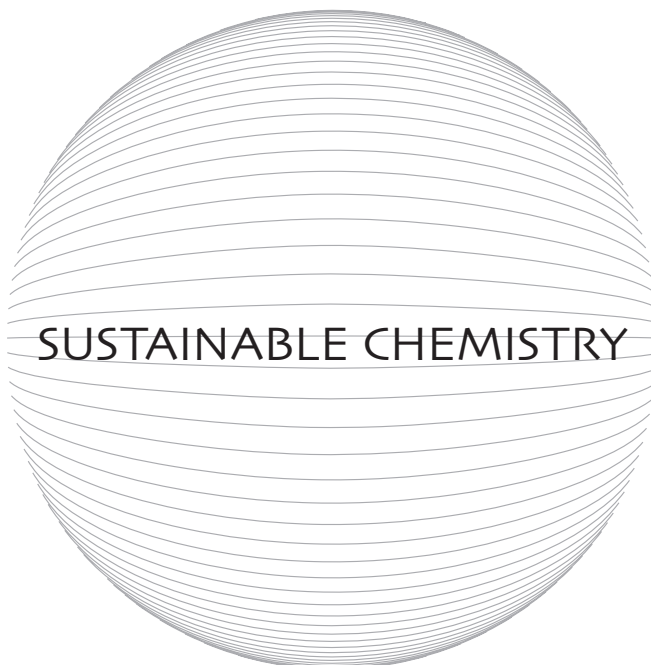


I 社会活動

- 1 地域・社会と共に 2
- 2 社員と共に 2

II レスポンシブル・ケア活動

- 1 マネジメントシステム 4
- 2 労働安全衛生 5
- 3 環境保全 6
- 4 物流環境保全14
- 5 保安防災15
- 6 RC 監査15
- 7 グループでの環境保全管理目標の共有化16



1 | 地域・社会と共に

社会への寄付活動

2008年度の寄付実績と、主な寄付例について報告します。

●2008年度寄付実績

地域社会の活動	126件
スポーツ	28件
社会福祉	16件
健康・医学	4件
学術・研究	7件
教育・社会教育	23件
文化・芸術	19件
環境	11件
史跡・伝統文化保存	5件
国際交流・協力	31件
災害被災地支援	5件
防災まちづくり支援	1件
NPOの基盤形成	2件
その他	160件
合計	438件

(総額：2億6,008万円)

●主な寄付例

(単位：百万円)

住友財団基本財産拡充	38
日本ハンガリー国交回復50周年記念事業	30
ザンベジ河でのマラリア防除プロジェクト支援	15
WHOコモロ諸島でのマラリア防除プロジェクト支援	10
伊勢神宮式年遷宮(2分割のうちの2回目)	10
中国・四川大地震義援金	10
ウガンダにおける小学校校舎建設事業	9
オイスカ「植林活動支援」マッチングギフト	6
あしなが育英会マッチングギフト	6

2 | 社員と共に

①育児・介護に関する就業支援制度

育児や介護を行う社員が、仕事との両立を果たしていけるよう、各種支援制度を設けています。

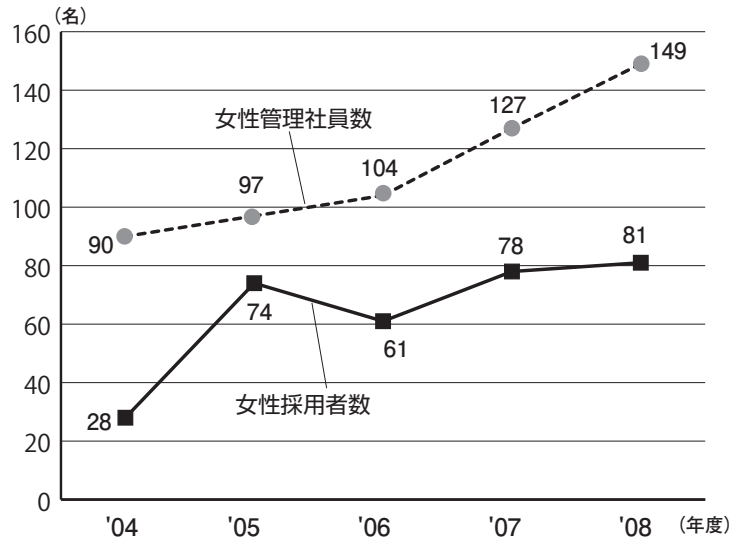
●就業支援制度 利用実績

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
育児休業・介護休業	51名	48名	51名	56名
短時間勤務措置	7名	12名	19名	28名
時間外勤務の制限・深夜勤務の免除	0名	0名	1名	3名
積立保存休暇(介護・育児事由)	8名	10名	17名	6名

②女性採用数・管理社員数

性別を問わず働きやすい職場づくりを心掛けており、多くの女性が活躍しています。

●女性採用者数・管理社員数推移



③障がい者雇用

障がい者の雇用に積極的に取り組んでいます。職場への受け入れにあたっては、障がいの程度等を勘案した職務の設計や、障がいをケアするための職場環境の整備などを行うことにより、能力を最大限に発揮できるような職場づくりに努めています。

●障がい者雇用実績

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
雇用率	1.99%	2.08%	1.93%	1.85%	1.89%	1.93%	1.95%

④定年退職後再雇用制度の導入

2001年度から定年退職者の再雇用を開始し、2006年4月に改正高齢者雇用安定法に対応した、新たな再雇用制度を導入しました。2008年度については、定年退職者168名（住友化学本体勤務者）のうち、88名（52.4%）を再雇用し、再雇用者はこれまで職場で培ってきた高い技能や専門性を引き続き社内で発揮しています。

●定年退職後再雇用従業員数

2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末	2008年3月末	2009年3月末
33名	48名	48名	125名	211名	261名

1 | マネジメントシステム ~国際基準によるマネジメントシステムの導入状況~

①環境マネジメントシステム (ISO14001)

1997～99年にかけて、全工場でISO14001 (1996年版) の認証取得を完了しました。その後、2005～06年にかけて、ISO14001 (1996年版) の改訂版であるISO14001 (2004年版) の移行審査を受審し、新規格での認証登録を行いました。2009年7月現在、住友化学グループ会社では国内21社、海外8社がISO14001 (2004年版) を認証取得しています。

●住友化学 5 工場の ISO14001 認証取得状況

工場名 [登録番号]	ISO14001 (1996年版) 取得年月	ISO14001 (2004年版) 取得年月
愛媛工場 [JCQA-E-018]	1998年 4 月	2006年 4 月
千葉工場 [KHK-97ER-04]	1997年 6 月	2006年 3 月
大阪工場 (春日出) [JQA-E-90072]	1997年11月	2006年 1 月
大阪工場 (岐阜プラント) [JCQA-E-0206]	2000年12月	2005年12月
大阪工場 (岡山プラント) [JCQA-E-0218]	2001年 1 月	2006年 2 月
大分工場 [JQA-E-90152]	1998年 3 月	2006年 4 月
三沢工場 [JQA-EM0355]	1999年 3 月	2006年 2 月

②品質マネジメントシステム (ISO9001)

1994～98年にかけて、大阪工場 (岐阜プラント)* を除く全工場でISO9002 (1994年版) の認証取得を完了しました。その後、2002～03年にかけて、ISO9000シリーズの2000年版への移行審査を受審し、ISO9001への切り替えを行いました。2009年7月現在、住友化学グループ会社では国内28社、海外14社がISO9000シリーズを認証取得しています。

●住友化学 5 工場の ISO9000 シリーズ認証取得状況

工場名 [登録番号]	ISO9002 (1994年版) 取得年月	ISO9001 (2000年版) 取得年月
愛媛工場 [JCQA-0019] [JCQA-0320] [QA-00-012A]	1994年10月 1998年 4 月 —	2002年12月 2003年 3 月 2000年 6 月
千葉工場 [JQA-0829]	1995年 3 月	2002年 9 月
大阪工場 (春日出) [JQA-0721]	1994年12月	2002年12月
大阪工場 (岡山プラント) [JQA-1650]	1997年 3 月	2003年 9 月
大分工場 [JQA-1069]	1995年12月	2003年 2 月
三沢工場 [JQA-0752]	1994年12月	2002年12月

*大阪工場 (岐阜プラント) は、他工場 (大阪工場 (春日出)、大阪工場 (岡山プラント)、大分工場、三沢工場) と同様に、GMP (医薬品等の製造管理および品質管理の基準) の管理を行っています。

③労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS)

2003年5月に、千葉工場でJISHA (中央労働災害防止協会) よりOSHMSの認証取得を完了したことを皮切りに、2008年度までに当社5工場2研究所の認証取得を完了しました。

●住友化学 5 工場 2 研究所の OSHMS 認証取得状況

事業所名	登録番号	取得年月
愛媛工場	04-38-1	2004年 9 月
千葉工場	03-12-1	2003年 5 月
大阪工場 (春日出)	05-27-3	2005年 2 月
大阪工場 (歌島地区)	09-27-14	2009年 1 月
大阪工場 (岐阜プラント)	09-21-6	2009年 2 月
大阪工場 (岡山プラント)	09-33-7	2009年 2 月
大分工場	06-44-1	2006年 7 月
三沢工場	05-2-1	2005年11月
農業化学品研究所	07-28-9	2007年 1 月
筑波研究所	05-8-3	2005年12月

2 | 労働安全衛生

(1) 休業無災害表彰基準と実績

住友化学社員および協力会社社員に対して、事業所ごとに無災害継続時間の基準を設定し、各基準を達成することにより「社長安全表彰」を行っています。

①住友化学社員

事業所名	社長安全表彰基準 (休業無災害継続時間)	2008年度基準達成状況
愛媛工場	300万時間	2009年4月に300万時間の目標達成
千葉工場	300万時間	2008年8月に300万時間の目標達成
大阪工場	300万時間	2008年11月に300万時間の目標達成
大分工場	100万時間	2008年11月に400万時間の目標達成
三沢工場	30カ月	2008年9月に60カ月の目標達成
農業化学品研究所	30カ月	2008年12月に270カ月の目標達成
筑波研究所	30カ月	2009年3月に240カ月の目標達成

②協力会社社員

協他会名 (略称)	社長安全表彰基準 (休業無災害継続時間)	2008年度基準達成状況
愛媛協定会 (保安)	24カ月	(2010年11月に24カ月の目標達成予定)
愛媛協定会 (物流)	24カ月	(2009年11月に24カ月の目標達成予定)
千葉協定会 (保安)	24カ月	(2010年1月に24カ月の目標達成予定)
千葉協定会 (物流)	24カ月	2008年8月に48カ月の目標達成
大阪協定会	24カ月	(2010年7月に24カ月の目標達成予定)
岡山協定会	48カ月	2008年10月に48カ月の目標達成
大分協定会	24カ月	(2011年5月に24カ月の目標達成予定)
三沢協定会	48カ月	(2011年3月に144カ月の目標達成予定)
農業化学品研究所協定会	48カ月	(2011年3月に144カ月の目標達成予定)
筑波協定会	48カ月	(2011年9月に144カ月の目標達成予定)

(2) グループ会社の安全成績

住友化学を除く住友化学グループ会社の休業災害件数および休業災害度数率は、2008年度は、2007年度に比較して安全成績が向上しました。発生した災害の内容について全グループで情報の共有化を図り、グループ全体の安全成績の改善を目指します。

	休業災害件数	休業災害度数率
2007年度	14件	0.33
2008年度	13件	0.26

※2007年度の休業災害度数率は、精度向上を図り修正した。

3 | 環境保全

【公害防止】

①SOx、NOx、ばいじんの 大気排出量

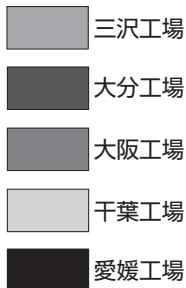
SOx、NOx、ばいじんの大気排出は、1970年以降大幅な削減を達成し、80年以降、現在まで低水準の排出量を維持しています。また、各工場では、法による規制よりも厳しい協定値を自治体と締結し、この値を自主管理基準値としています。目標として、この自主管理基準値以下の維持・継続に努めています。SOxの排出量については、硫黄含有率の高い重油の使用増加により、ここ数年は増加傾向にあります。自主管理基準値を大幅に下回っています。

II レスポンシブル・ケア活動

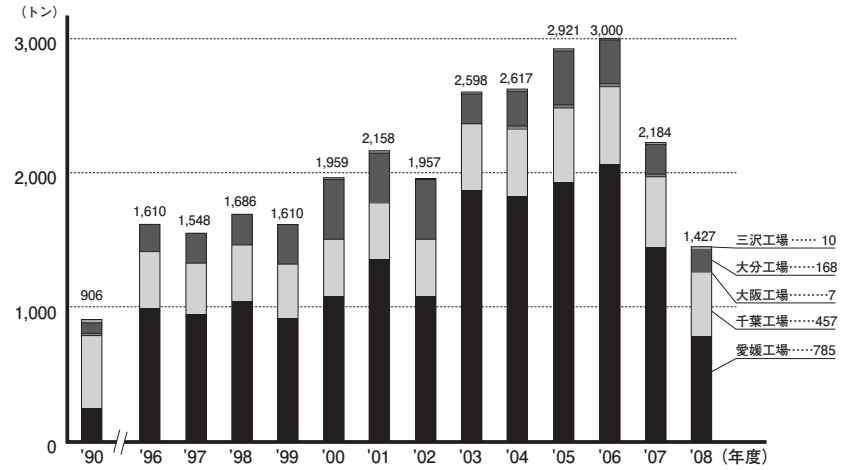
環境保全

◇目標◇

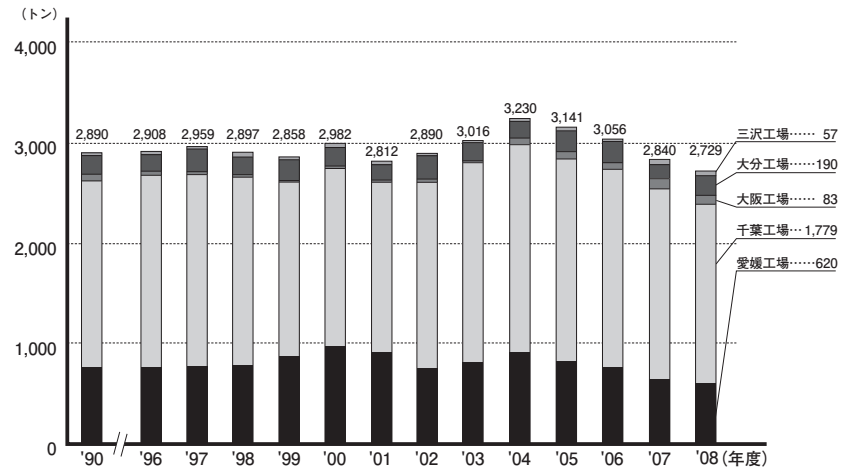
自主管理基準値以下の維持・継続に努める。



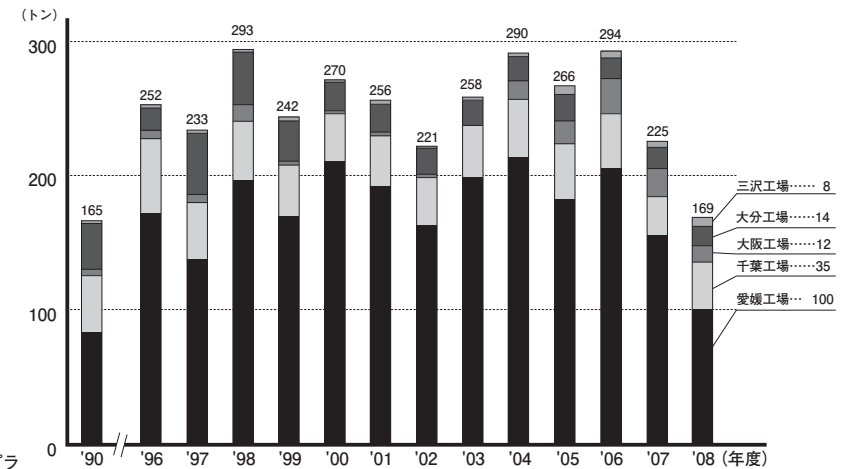
SOx排出量



NOx排出量



ばいじん排出量



※2004年度以降の大阪工場には、大阪工場（岐阜プラント）・大阪工場（岡山プラント）のデータを含む。

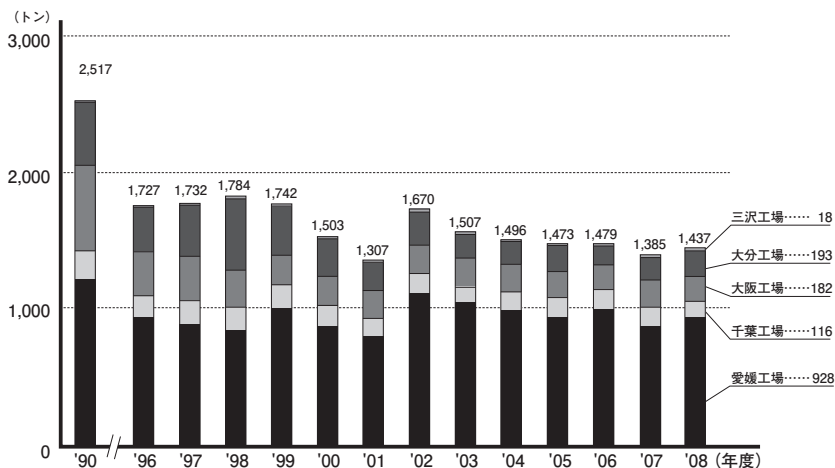
②COD、窒素、リンの 水域排出量

住友化学では、COD、窒素、リンについても、法による規制よりも厳しい協定値を自治体と締結し、この値を自主管理基準値としています。第5次水質総量規制を踏まえた排出削減諸施策の実施により、2004年度以降、とりわけ窒素およびリンの排出量を大きく削減しています。

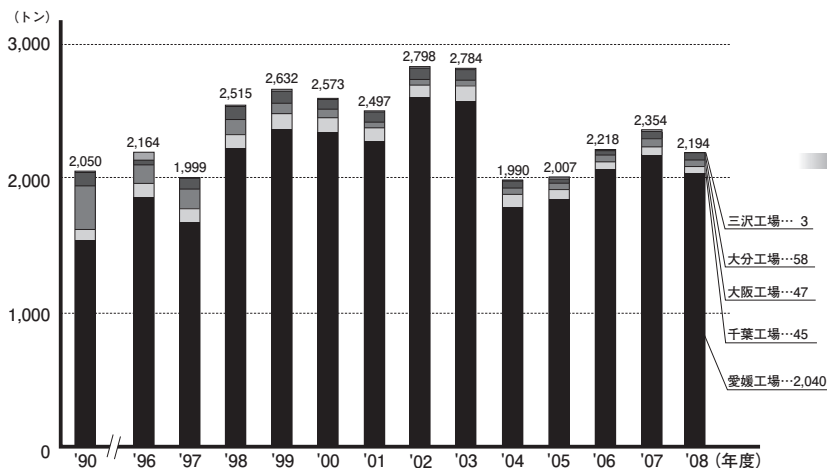
◇目標◇

自主管理基準値以下の維持・継続に努める。

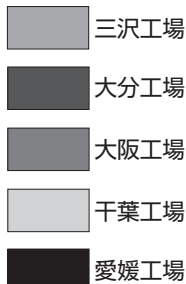
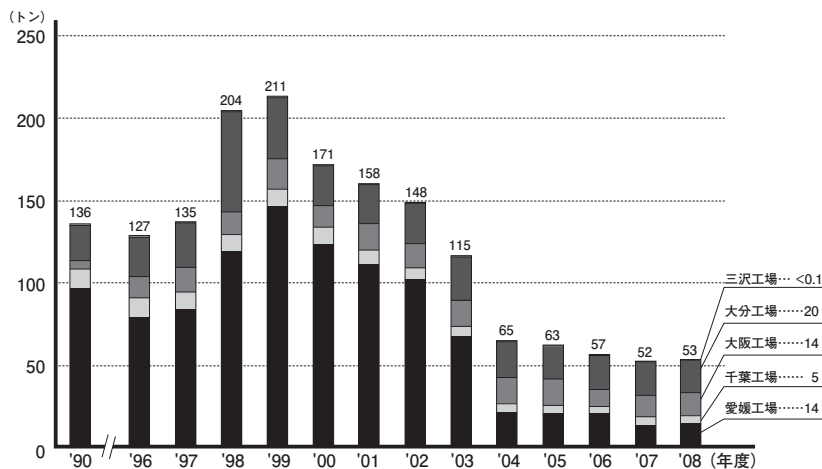
COD排出量



全窒素排出量



全リン排出量



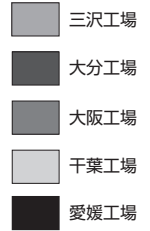
※2004年度以降の大阪工場には、大阪工場(岐阜プラント)・大阪工場(岡山プラント)のデータを含む。

【効果的な水利用の推進】

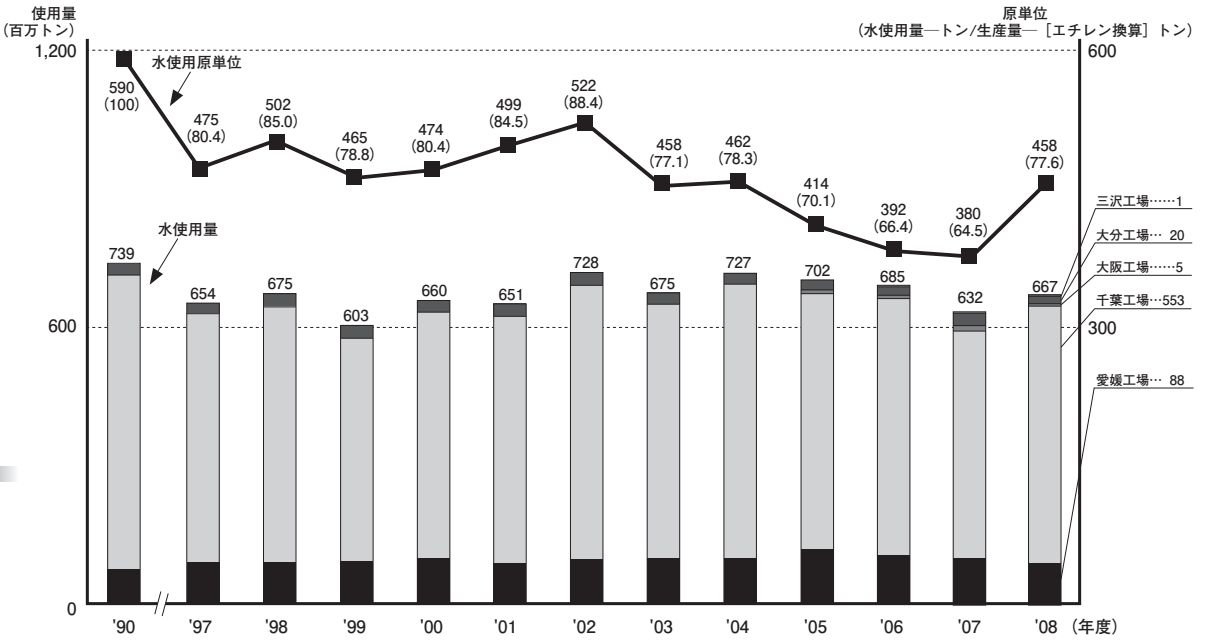
住友化学は、水を貴重かつ重要な資源として位置付け、その効率的な利用の促進に努めています。2008年度の水使用原単位は、生産量の大幅な減少が影響して、前年度比20.2%の悪化となりました。

◇目標◇

水資源の効率的な利用

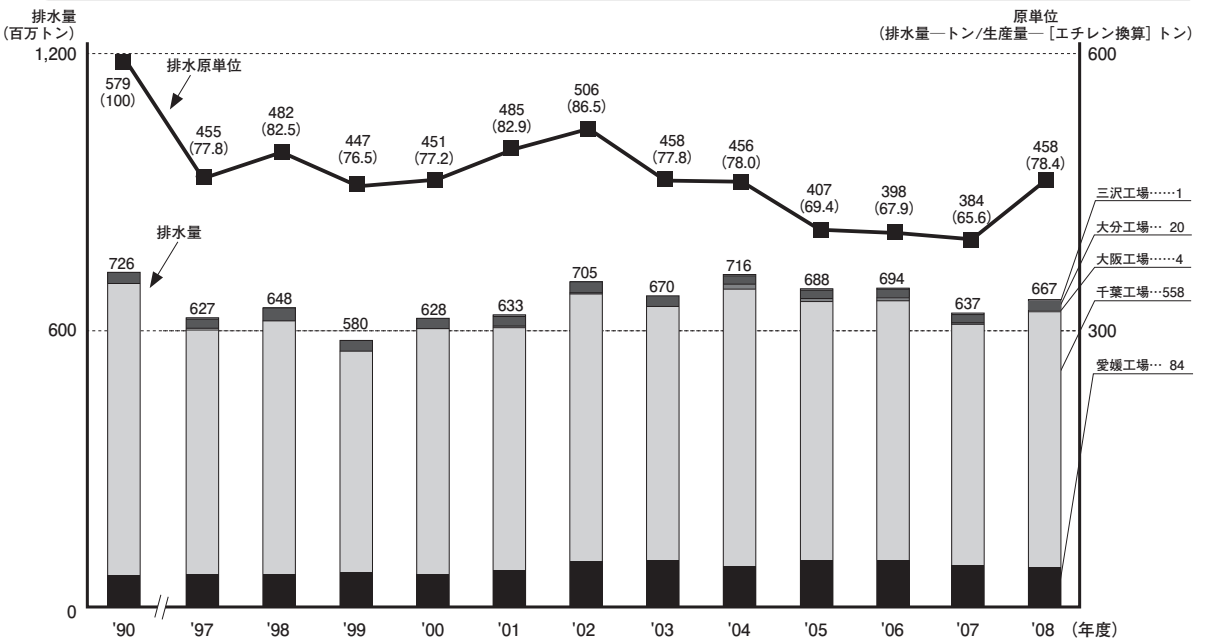


水使用量と水使用原単位



※2004年度以降の大阪工場には、大阪工場（岐阜プラント）・大阪工場（岡山プラント）のデータを含む。 ※（ ）内は指数値（'90=100）
 ※水使用量には一部、グループ会社分を含む。 ※過年度のデータは、精度向上を図り修正した。

排水量と排水原単位



※2004年度以降の大阪工場には、大阪工場（岐阜プラント）・大阪工場（岡山プラント）のデータを含む。 ※（ ）内は指数値（'90=100）
 ※排水量には一部、グループ会社分を含む。 ※過年度のデータは、精度向上を図り修正した。

【温室効果ガス排出削減】

①CO₂

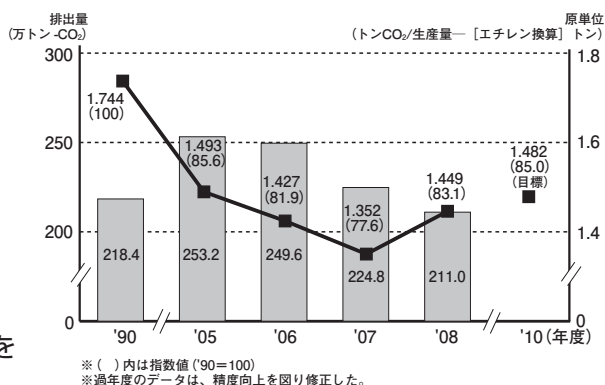
2008年度のCO₂排出量は、生産量の大幅な減少が影響して、前年度比7.6%減の435.1万トンでした。1990年度比では18.0%の増加となりました。

一方、2008年度の自家消費する化石燃料由来のCO₂排出原単位は、前年度比7.2%の悪化となり、1990年度比では16.9%改善となりました。

◇目標◇

自家消費する化石燃料由来のCO₂排出原単位を2010年度までに1990年度比15%改善する。

自家消費する化石燃料由来のCO₂排出量と同原単位



②温室効果ガス (全6ガス)

(注)「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国に報告を行った全6ガスの排出量はCO₂換算で420.8万トンでした。

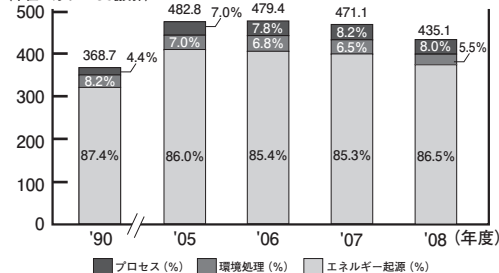
温室効果ガス (全6ガス) の排出量

(単位: 万トンCO₂換算)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
CO ₂	482.8	479.4	471.1	435.1
メタン	0.01	0.01	0.01	0.01
亜酸化窒素 (N ₂ O)	5.7	6.4	5.8	5.3
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	<0.01	<0.01	0.02	0.02
PFC (パーフルオロカーボン)	0	0	0	0
六フッ化硫黄	0	0	0	0
合計	488.5	485.8	476.9	440.4

発生源別のCO₂排出割合

(単位: 万トンCO₂換算)



【CO₂の排出量集計システムの開発・解析手法の検討】

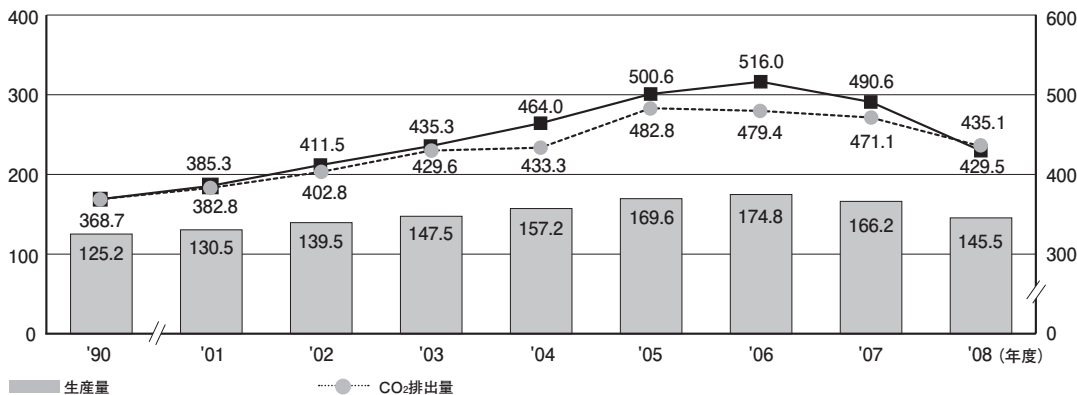
①CO₂削減効果の定量的把握

生産指数の影響やCO₂排出原単位改善効果の影響の両面から解析を行い、CO₂の排出挙動を定量的に把握しています。

CO₂の排出量

生産量 (万トン-エチレン換算)

排出量 (万トン-CO₂)



■ 排出削減策を一切講じなかったと仮定した和合 (BAU) の生産量増加見合いでのCO₂予想排出量 (万トン-CO₂)

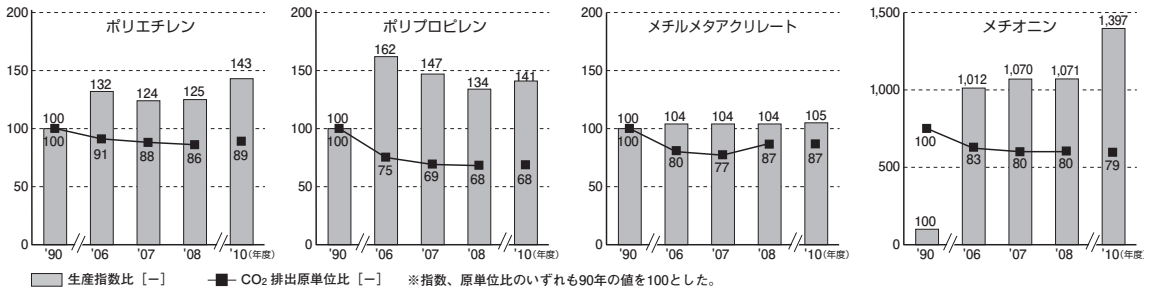
※1990, 2004 ~ 2008年度のデータには、大阪工場 (岐阜プラント)・大阪工場 (岡山プラント) のデータを含む。

※過年度のデータは、精度向上を図り修正した。

②製品(群)のCO₂排出挙動の把握

個々の製品(群)のCO₂排出効率を定量的につかむことにより、改善のターゲットを明確にして、さらなる効率向上に努めています。以下に製品別の事例を記載します。

製品別のCO₂の排出量



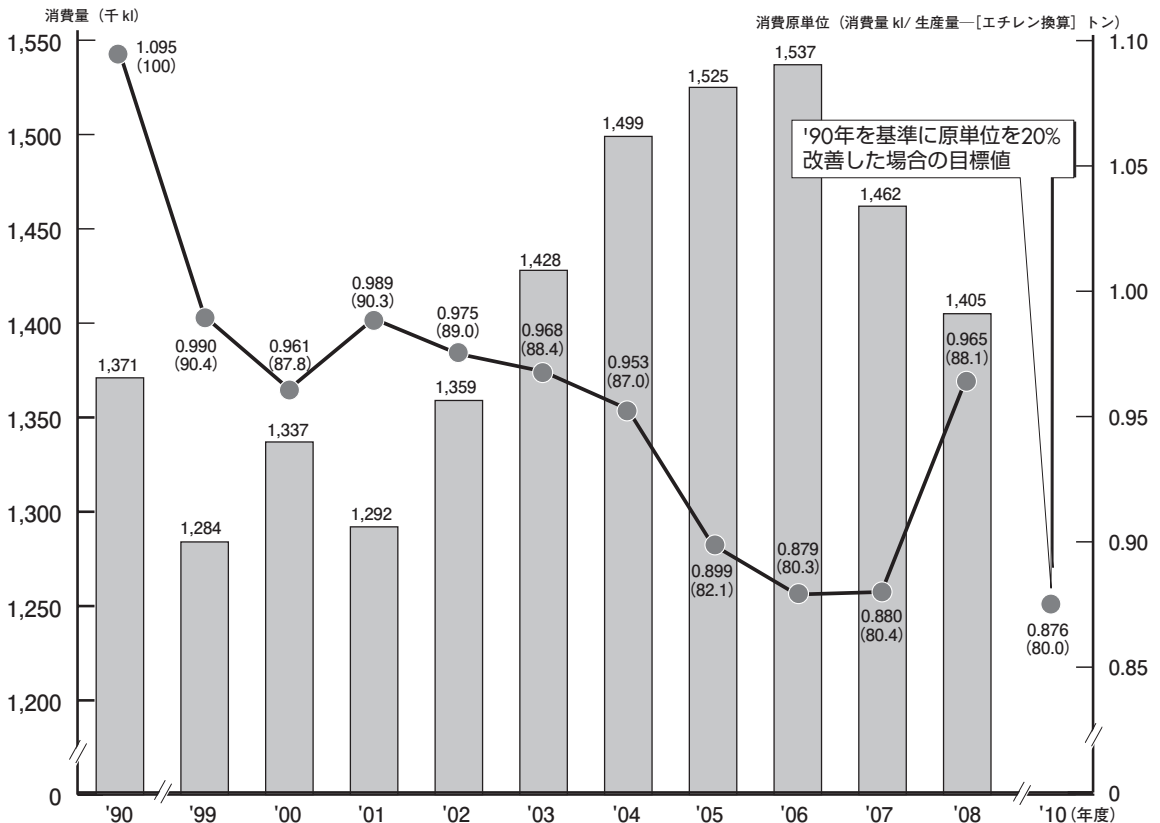
【省エネルギー】

2008年度のエネルギー消費量は生産量の大幅な減少が影響して、前年度比3.9%減の1,405千kl(原油換算)となり、一方でエネルギー消費原単位は前年度比9.7%の悪化となり、1990年度比では11.9%の改善となりました。

◇目標◇

2010年度のエネルギー消費原単位を1990年度比20%改善する。

エネルギー消費量とエネルギー消費原単位



※1990(基準年)、2004~2007年度のデータには、大阪工場(岐阜プラント)・大阪工場(岡山プラント)のデータを含む。
 ※過年度のデータは、精度向上を図り修正した。

[PRTR 対応]

住友化学は、「環境リスクに基づくリスク評価」や「排出ランキング評価」等の結果をもとに策定した「PRTR法調査物質の総排出量（大気・水域）を2010年度までに2002年度比50%削減」の目標達成に向け、各種の削減対策を計画的に推進しています。2008年度のPRTR法調査物質の総排出量は、前年度比8.9%削減の552.3トンとなりました。

●2008年度PRTR法調査物質の排出量・移動量一覧表

(単位：トン ただしダイオキシン類のみmg-TEQ)

No.	PRTR法 調査 物質	日化 調査 物質	化学物質名	排 出 量					移 動 量		
				大 気	水 質	土 壌	埋 立	合 計	下水道	廃棄物	合 計
1	○	○	亜鉛の水溶性化合物	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	162.3	162.3
2	○	○	アクリル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	○	○	アクリル酸メチル	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.1	1.1
4	○	○	アクリロニトリル	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0
5	○	○	アクロレイン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6		○	アジピン酸	0.5	5.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.0	0.0
7	○	○	アセトアルデヒド	0.2	<0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
8	○	○	アセトニトリル	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	62.3	62.3
9		○	アセトン	63.0	0.5	0.0	0.0	63.5	0.0	191.3	191.3
10	○	○	2, 2'-アゾビスイソブチロニトリル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	○	○	o-アニジジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	○	○	アニリン	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	150.5	150.5
13	○	○	2-アミノエタノール	<0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	20.1	20.1
14	○	○	m-アミノフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15	○	○	アリルアルコール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	4.3	4.3
16	○	○	アンチモン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	3.6
17		○	アンモニア	4.5	0.1	0.0	0.0	4.6	0.0	25.9	25.9
18		○	アルミニウム化合物（水溶性塩）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	○	○	イソブレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	○	○	0-エチル=0-(6-ニトロ-m-トリル) =sec-ブチルホスホルアミドチオアート（別名ブタミホス）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
21		○	2-エチル-1-ヘキサノール	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	656.8	656.8
22	○	○	エチルベンゼン	8.6	0.2	0.0	0.0	8.8	0.0	31.1	31.1
23	○	○	エチレンオキシド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24	○	○	エチレングリコール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	6.1
25	○	○	エチレンジアミン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
26	○	○	エピクロヒドリン	5.1	4.3	0.0	0.0	9.4	0.0	0.0	0.0
27	○	○	1, 2-エポキシプロパン（別名酸化プロピレン）	7.6	<0.1	0.0	0.0	7.6	0.0	0.0	0.0
28		○	塩化水素（塩酸を除く）	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.2	0.2
29		○	塩素	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
30	○	○	ε-カプロラクタム	0.4	148.6	0.0	0.0	149.0	0.0	4.1	4.1
31		○	ギ酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
32	○	○	キシレン	15.0	0.1	0.0	0.0	15.1	<0.1	36.8	36.8
33		○	クメン/イソプロピルベンゼン	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
34	○	○	グリオキサール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
35	○	○	クレゾール	0.2	<0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
36		○	クロルスルホン酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
37	○	○	クロロアセチル=クロリド	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.1	0.1
38	○	○	p-クロロアニリン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
39	○	○	クロロエタン	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
40	○	○	3-クロロプロペン（別名塩化アリル）	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
41	○	○	クロロベンゼン	16.1	<0.1	0.0	0.0	16.1	0.0	424.4	424.4
42	○	○	クロホルム	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	60.6	60.6
43	○	○	コバルト及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<0.1	<0.1
44		○	酢酸エチル	13.0	<0.1	0.0	0.0	13.0	0.0	86.9	86.9
45	○	○	酢酸ビニル	59.1	<0.1	0.0	0.0	59.1	0.0	124.0	124.0
46	○	○	サリチルアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
47	○	○	o-シアメ-3-フェノキシベンゼン=3-(2, 2-ジクロロビニル)-2, 2-ジメチルシクロプロパンカルボキシラート（別名シベルメトリン）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
48	○	○	無機シアン化合物（錯塩及びシアン酸塩を除く）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
49		○	ジエタノールアミン	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	1.6	1.6
50	○	○	1, 4-ジオキサン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
51		○	シクロヘキサノール	13.1	<0.1	0.0	0.0	13.1	0.0	53.0	53.0
52		○	シクロヘキサン	82.7	0.0	0.0	0.0	82.7	0.0	0.0	0.0
53	○	○	シクロヘキシルアミン	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	6.9	6.9
54	○	○	1, 2-ジクロロエタン	5.2	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	99.0	99.0
55	○	○	1, 2-ジクロロプロパン	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	315.2	315.2
56	○	○	1, 3-ジクロロプロペン（別名D-D）	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	204.8	204.8
57	○	○	o-ジクロロベンゼン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	46.3	46.3
58	○	○	ジクロロペンタフルオロプロパン（別名HCFC-225）	10.3	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0	0.0	0.0
59	○	○	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	13.7	0.0	0.0	0.0	13.7	0.0	141.0	141.0
60	○	○	2, 4-ジニトロフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.9	53.9
61	○	○	ジフェニルアミン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.0	7.0
62		○	2, 6-ジ-t-ブチル-4-メチルフェノール/BHT	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
63		○	ジメチルアミン	0.0	52.6	0.0	0.0	52.6	0.0	0.9	0.9
64	○	○	N, N-ジメチルホルムアミド	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	190.6	190.6

●2008年度PRTR法調査物質の排出量・移動量一覧表

No.	PRTR法 調査 物質	日化協 調査 物質	化学物質名	排出量					移動量		
				大気	水質	土壌	埋立	合計	下水道	廃棄物	合計
65		○	臭化水素	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
66		○	しゅう酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
67		○	臭素	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
68		○	硝酸	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	9.1	9.1
69	○	○	スチレン	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0
70	○	○	ダイオキシン類	30.5	22.2	0.0	0.0	52.7	<0.1	110.9	110.9
71	○	○	チオりん酸O-4-シアノフェニル-O、O-ジメチル(別名シアノホス又はCYAP)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
72	○	○	チオりん酸O、O-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)(別名フェニトロチオン又はMEP)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
73	○	○	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3.3.1.1(3,7)]デカン(別名ヘキサメチレンテトラミン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
74		○	テトラヒドロフラン	12.6	0.1	0.0	0.0	12.7	0.0	46.6	46.6
75	○	○	テレフタル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	313.9	313.9
76	○	○	銅水溶性塩(錯塩を除く)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
77	○	○	トリエタノールアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
78		○	トリエチルアミン	10.6	8.1	0.0	0.0	18.7	0.0	74.6	74.6
79	○	○	2,4,6-トリクロロ-1,3,5-トリアジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80	○	○	トリクロロトリフルオロエタン(別名CFC-113)	<0.1	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
81	○	○	トリクロロフルオロメタン(別名CFC-11)	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
82		○	トリメチルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
83	○	○	1,3,5-トリメチルベンゼン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.1	0.1
84	○	○	o-トルイジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9	3.9
85	○	○	トルエン	165.9	0.9	0.0	0.0	166.8	<0.1	2045.2	2045.2
86	○	○	ニッケル化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9
87	○	○	N-ニトロソジフェニルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.6	18.6
88	○	○	p-ニトロフェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	3.5
89	○	○	ニトロベンゼン	0.6	1.5	0.0	0.0	2.1	0.0	63.0	63.0
90	○	○	砒素及びその無機化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
91	○	○	ヒドラジン	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	15.5	15.5
92	○	○	ヒドロキノン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<0.1	<0.1
93	○	○	ピリジン	0.3	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	2.5	2.5
94	○	○	m-フェニレンジアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
95	○	○	フェノール	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	8.8	8.8
96	○	○	1,3-ブタジエン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
97	○	○	フタル酸ジイソブチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
98	○	○	フタル酸ジ-n-ブチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
99	○	○	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.7
100	○	○	ブチルアルコール	0.7	0.6	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
101	○	○	ブチルアルデヒド	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
102	○	○	プロピルアルコール	8.4	0.1	0.0	0.0	8.5	0.0	170.1	170.1
103	○	○	2-プロモプロパン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
104	○	○	n-ヘキサン	1737.2	<0.1	0.0	0.0	1737.2	0.0	363.1	363.1
105	○	○	ベンジル=クロリド(別名塩化ベンジル)	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
106	○	○	ベンズアルデヒド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
107	○	○	ベンゼン	15.2	0.8	0.0	0.0	16.0	0.0	0.0	0.0
108	○	○	ペンタエリスリトール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
109	○	○	ほう素及びその化合物	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	1.3	1.3
110	○	○	ホスゲン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
111	○	○	ポリ(オキシエチレン) =アルキルエーテル(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
112	○	○	ホルムアルデヒド	0.2	<0.1	0.0	0.0	0.2	2.1	0.0	2.1
113	○	○	マンガン及びその化合物	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	22.8	22.8
114	○	○	無水フタル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
115	○	○	無水マレイン酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
116	○	○	メタクリル酸	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	15.0
117	○	○	メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
118	○	○	メタクリル酸メチル	40.2	0.0	0.0	0.0	40.2	0.0	125.3	125.3
119	○	○	メタンチオール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
120	○	○	(Z)-2-メチルアセトフェノン=4,6-ジメチル-2-ピリミジニルヒドラゾン(別名フェリムゾン)	0.0	<0.1	0.0	0.0	<0.1	0.0	0.0	0.0
121	○	○	メチルアミン	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	6.8	6.8
122	○	○	メチルアルコール	34.9	0.7	0.0	0.0	35.6	0.0	899.2	899.2
123	○	○	N-メチルピロリドン	<0.1	0.0	0.0	0.0	<0.1	0.0	37.0	37.0
124	○	○	メチルブチルケトン	105.0	1.3	0.0	0.0	106.3	0.0	1894.0	1894.0
125	○	○	硫酸	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	105.7	105.7
126	○	○	硫酸ジエチル	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
127	○	○	硫酸ジメチル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
128	○	○	りん及びその化合物	0.2	26.7	0.0	0.0	26.9	0.0	<0.1	<0.1
			住友化学全128物質集計(2008年度)	2488.6	254.4	0.0	0.0	2743.0	2.3	9422.4	9424.7

*PRTR法ではkg・有効数字2桁だが、本報告書の数値はトン単位(ダイオキシンはmg-TEQ)で少数点以下第1位まで表記した(小数点第2位で四捨五入)。

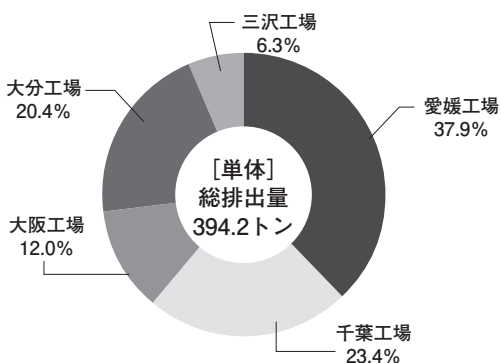
●2008年度PRTR法調査物質の排出・移動量の内訳

		排出量			移動量		
		大気	水域	小計	下水道	廃棄	小計
PRTR法調査物質	単体 (89物質)	394.2	158.1	552.3	2.3	4799.5	4801.8
	グループ	1153.7	180.4	1334.1	22.0	8048.3	8070.3
日化協PRTR調査物質	単体 (128物質)	2488.6	254.4	2743.0	2.3	9422.4	9424.7

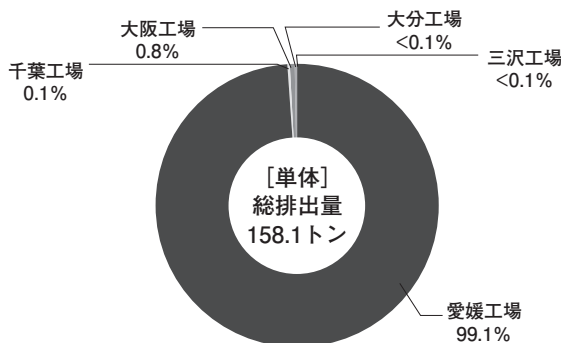
※グループの2008年度PRTR法調査物質の排出・移動量の内訳は、住友化学と国内グループ会社（16社）の集計値。

排出量の工場別内訳

●大気排出量（PRTR法調査物質）



●水域排出量（PRTR法調査物質）



【揮発性有機化合物（VOC）排出削減の取り組み】

「大気汚染防止法」に基づき2004年から規制の対象となったVOCについて、住友化学は「VOC排出量を2010年度までに2000年度比30%削減」という同法の基準より厳しい目標を設定しています。現在は、PRTR法対応の一環で排出削減計画の具体化に取り組んでいます。2008年度のVOC排出量は、具体的な排出削減対策に加え、生産量の大幅な減少等の影響により前年度比11.5%減の3,551トン、2000年度比では4.4%の減少となりました。2009年度以降は、処理設備の増強によって、排出量を大きく削減していく予定です。

【オゾン層破壊防止】

住友化学は強いオゾン層破壊作用を有する特定フロン（「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律」で特定物質に指定されたもの）を冷媒に使用する冷凍機については、「みだりに冷媒を大気へ排出しない」「冷凍機の使用を中止して、特定フロンを処分する場合は、適切に回収・運搬して破壊処理を行う」という方針で管理しています。

●2008年度末における特定フロン冷凍機の管理状況（単体、グループ）

種類	単体	グループ
	台数	
CFC11	21	24
CFC12	7	58
CFC113	0	0
CFC114	0	0
CFC115	0	11
計	28	93

※データは精度向上を回り修正した。
※グループのデータは、住友化学と国内グループ会社（16社）の集計値。

◇目標◇

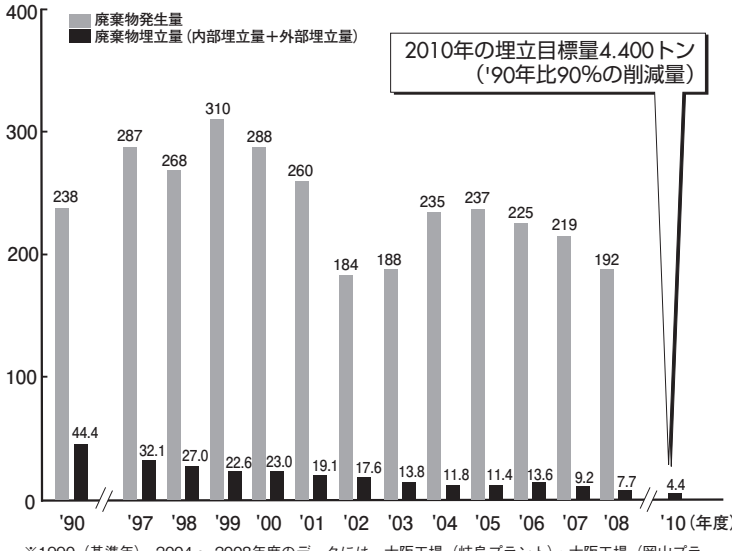
特定フロン（CFC11、CFC12、CFC113、CFC114、CFC115）を冷媒とする冷凍機の使用を2025年までに全廃する。

【廃棄物削減】

汚泥焼却灰の再資源の推進により、2008年度の廃棄物埋立量は7.7千トンで、前年度比16.3%の減少となりました。

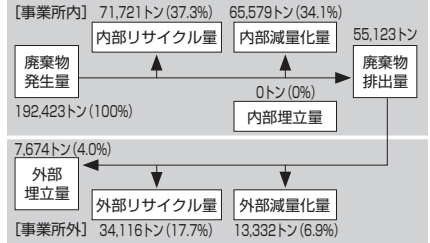
◇目標◇ 2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比90%削減する。

廃棄物発生量と埋立量の推移(単体)

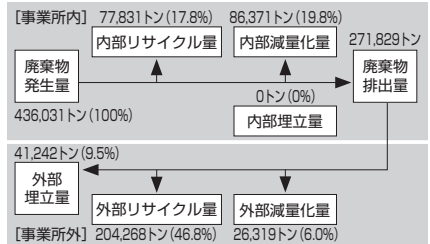


※1990(基準年)、2004～2008年度のデータには、大阪工場(岐阜プラント)・大阪工場(岡山プラント)のデータを含む。

廃棄物処理フローと実績(2008年度、単体)



廃棄物処理フローと実績(2008年度、グループ)



リサイクル量：再使用、再利用もしくは熱回収された廃棄物の総量
減量化量：焼却等で減量化された廃棄物の総量
※グループのデータは、住友化学と国内グループ会社(16社)の集計値。

【PCBの回収・保管・処理】

「PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」に基づき、保有するPCB廃棄物(変圧器、コンデンサーなどの絶縁油にPCBを使用する電気機器)は適正に回収し、特別管理産業廃棄物として倉庫内に保管場所を定め、厳重に保管しています。これらPCB廃棄物については、同法が定めた処理期限を前倒して、2014年3月までに全数の処理を完了させる予定です。

◇目標◇

PCB廃棄物の適正な回収・保管に努め、
2014年3月までに処理を完了する。

●2008年度末におけるPCB廃棄物の管理状況(単体・グループ)

	PCB廃棄物台数	PCB量(m ³)
単体	708 (保留…680/使用…28)	40.7
グループ	1,386 (保留…1,064/使用…322)	45.3

※低濃度PCB廃棄物は含まない。
※グループのデータは、住友化学と国内グループ会社(16社)の集計値。
※データは精度向上を図り修正した。
※蛍光灯および水銀灯の各安定器の取り扱い
・単体……………集計の対象外
・グループ……………一部のグループ会社を除き、集計の対象外

4 | 物流環境保全

【物流部門の省エネ・CO₂排出削減の取り組み】

より効率的な輸送に努めた結果、2008年度のエネルギー消費原単位は前年度比5.4%の改善となりました。

●物流部門のCO₂の排出量推移

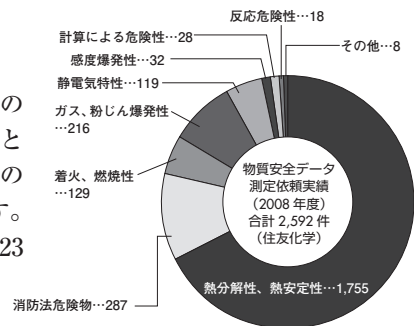
	2006年度	2007年度	2008年度
エネルギー消費量(千kl・原油)	40.3	39.7	34.7
エネルギー消費原単位(kl/トン)	0.0114	0.0111	0.0105
CO ₂ 排出量(千トン)	105.5	104.9	91.7

5 | 保安防災

【物質安全データ測定実績】

生産技術センター安全工学研究室（愛媛）では、化学プロセスの火災・爆発災害を防止するため、プロセスの安全性の検討・評価と安全対策の研究、物質安全データの測定と評価の研究、保安技術の蓄積とそのデータベース化、安全技術者の育成などを行っています。

2008年度の物質安全データ測定件数は2,592件（2007年度は、2,923件）でした。そのうち68%が熱分解、熱安定性の試験でした。



【保安情報データベース】

国内外の事故情報を収集して抄録を作成してデータを登録しており、2009年3月末現在で30,510件（2008年3月末は、28,988件）を超えるデータが収録されています。各工場や研究所の従業員すべてが登録情報の抄録文書が検索できるシステムで、各自の端末から抄録文および原文を閲覧・印刷できます。これらの保安情報は、プロセス危険性評価、事例検討による類似災害の防止などに活用しています。また、事故等の必要な情報をグループ会社へも提供しています。

- ・ 防災技術情報 : 13,104 件
 - ・ 事故原因調査 : 1,877 件
 - ・ 事故情報 : 15,529 件
- (2009年3月末現在)

【プロセス安全検討会議】

研究開発から工業化への各ステージにおいて「プロセス安全検討会議」を開催して、十分な安全性が確認されない限り、次のステップに進めないシステムになっています。このシステムは、社内規程「開発工業化規則」と「安全管理要領」に詳細に規定され、研究開発の責任者を明確にした運営が行われています。社内での運用はもとより関係グループ会社にも周知しています。

2008年度の全工場で開催された回数は合計212回で、徹底したプロセス危険性の抽出を継続しています。

●プロセス安全検討会議開催数

(単位: 回)

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	合計
2007年度	42	14	59	92	30	237
2008年度	39	22	45	81	25	212

6 | RC 監査

【実績】

2008年度は、専門監査と全体監査をあわせて35回実施しました。

●レスポンスシブル・ケア監査実績

(単位: 回)

事業所等		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
専門監査	工場	5	4	5	4	5	4	7	4	5	4
	研究所	0	2	1	0	1	1	0	1	1	0
	物流中継所	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
	事業部門	4	4	4	7	5	6	5	5	6	5
	グループ会社 (国内)	5	22	16	9	8	12	10	12	14	16
	グループ会社 (海外)	—	—	2	1	2	3	1	4	4	4
全体監査	工場・研究所	5	6	6	5	6	6	5	6	6	5
合計		19	38	34	27	27	32	29	32	36	35

2008年度の住友化学の専門監査における指摘件数は全155件でした。

継続的改善を図るため、毎年、監査項目を拡充・強化して監査を実施しています。

●2008年度事業所・事業部門の専門監査における指摘件数

(単位: 件)

指摘区分	対象	事業所 (工場・研究所) 物流中継所	事業部門 (本社事業部)	合計
評価できる項目		10	1	11
改善すべき項目		57	7	64
検討を要する項目		55	25	80
合計		122	33	155

7 | グループでの環境保全管理目標の共有化

【国内グループ】

国内グループ会社全体で、主要な環境負荷を計画的に低減させることを目的に、エネルギー消費原単位、CO₂排出原単位、PRTR排出量（大気・水域）ならびに廃棄物埋立量のそれぞれについて、いずれも2010年度を目標年度とする共通の目標を策定し、具体的な取り組みを展開しています。

① エネルギー消費原単位の改善

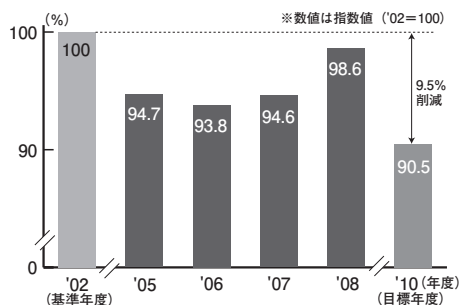
◇目標◇

2010年度のエネルギー消費原単位を2002年度比9.5%改善する。

◇実績◇

2008年度のエネルギー消費原単位は、2002年度比1.4%の改善となりました。

●エネルギー消費原単位指数の推移



② CO₂排出原単位の改善

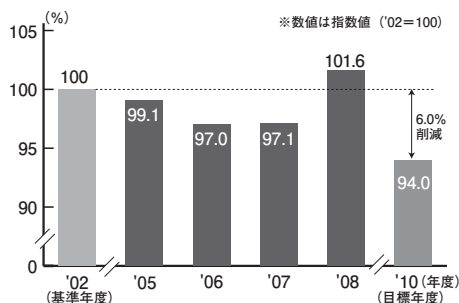
◇目標◇

2010年度のCO₂排出原単位を2002年度比6.0%改善する。

◇実績◇

2008年度のCO₂排出原単位は2002年度比1.6%の悪化となりました。

●CO₂排出原単位指数の推移



③ PRTR排出量の削減

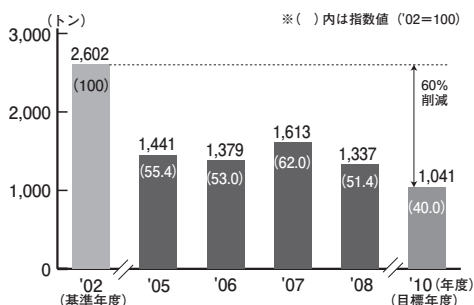
◇目標◇

2010年度のPRTR法調査物質の総排出量（大気・水域）を2002年度比60%削減する。

◇実績◇

2008年度のPRTR法調査物質の総排出量は2002年度比48.6%の削減となりました。

●PRTR排出量（大気・水域）の推移



④ 廃棄物埋立量の削減

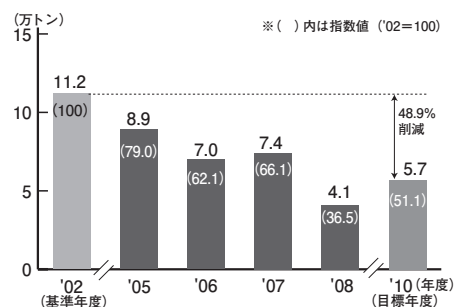
◇目標◇

2010年度の廃棄物埋立量を2002年度比48.9%削減する。

◇実績◇

2008年度の廃棄物埋立量は2002年度比63.5%の削減となりました。

●廃棄物埋立量の推移



※各項目の目標値（2010年度）は、住友化学と国内グループ会社（16社）がそれぞれ独自に設定した目標数値を積み上げて策定した。
 ※過年度のデータは、精度向上を図り一部修正した。

【グループ各社の目標値について】

主要な環境保全管理項目について、グループで目標を共有化（具体的な数値目標の設定）する際のベースとなった各社それぞれの取り組み目標は以下のとおりです。

●省エネルギー・地球温暖化防止への取り組み

会社名	目標の内容
朝日化学工業株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費量を1990年度比10%削減する
住化加工紙株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する
広栄化学工業株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する
サーモ株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費量を2002年度比10%削減する ・ 2010年度のCO ₂ 排出原単位を2003年度比10%改善する
サンテラ株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費原単位を2008年度比8%以内の悪化に抑制する
神東塗料株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する
住化カラー株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費原単位を1990年度比20%改善する
住友共同電力株式会社	・ 2010年度の自社火力発電のエネルギー消費原単位を2002年度比10%改善する ・ 2010年度の火力発電所の送電端のCO ₂ 排出原単位を1990年度比10%以上改善する
大日本住友製薬株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 2010年度のCO ₂ 排出量を1990年度のレベル以下に抑制する ・ CO ₂ 排出原単位を毎年1%改善する
住友ダウ株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO ₂ 排出原単位を毎年1%改善する
住化バイエルウレタン株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO ₂ 排出原単位を2010年度までに1990年度比10%改善する
田岡化学工業株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO ₂ 排出原単位を2010年度までに1990年度比3%改善する
日本エイアンドエル株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費原単位を1990年度比20%改善する
日本メジフィジックス株式会社	・ エネルギー消費量を毎年1%削減する
日本オキシラン株式会社	・ エネルギー消費原単位を毎年1%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO ₂ 排出原単位を2010年度までに1990年度比10%改善する
住友化学株式会社	・ 2010年度のエネルギー消費原単位を1990年度比20%改善する ・ 自家消費する化石燃料由来のCO ₂ 排出原単位を2010年度までに1990年度比15%改善する

●PRTR対応の取り組み

会社名	目標の内容
朝日化学工業株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2001年度のレベル以下に抑制する
住化加工紙株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比70%削減する
広栄化学工業株式会社	・生産量見合いでの排出増に抑制する
サーモ株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
サンテーラ株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
神東塗料株式会社	・2008年度の総排出量（大気・水域）を2001年度比50%削減する
住化カラー株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2003年度比15%削減する
住友共同電力株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
大日本住友製薬株式会社	・2010年度のジクロロメタン、クロロホルム、1,2-ジクロロエタンの大気総排出量を2003年度比20%削減する
住友ダウ株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2003年度比50%削減する
住化バイエルウレタン株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比60%削減する
田岡化学工業株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度のレベル以下に抑制する
日本エイアンドエル株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比60%削減する
日本メジフィジックス株式会社	・総排出量（大気・水域）ゼロレベルを維持する
日本オキシラン株式会社	・2010年度のモリブデンの水域排出量を10トンに削減する
住友化学株式会社	・2010年度の総排出量（大気・水域）を2002年度比50%削減する

●廃棄物削減の取り組み

会社名	目標の内容
朝日化学工業株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2006年度比40%増までに抑制する
住化加工紙株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度比99%以上削減する
広栄化学工業株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度比20%削減する
サーモ株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度レベル以下に抑制する
サンテーラ株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2003年度レベル以下に抑制する
神東塗料株式会社	・汚泥を除く全廃棄物について前年度比2%の廃棄物埋立量を削減する
住化カラー株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比20%削減する
住友共同電力株式会社	・2010年度の石炭灰の有効利用率を70%にする
大日本住友製薬株式会社	・2008年度の廃棄物埋立量を1990年度比80%以上削減する
住友ダウ株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2003年度レベル以下に抑制する
住化バイエルウレタン株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比85%削減する
田岡化学工業株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を2002年度レベル以下に抑制する
日本エイアンドエル株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比85%削減する
日本メジフィジックス株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を27トンに削減する
日本オキシラン株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比90%削減する
住友化学株式会社	・2010年度の廃棄物埋立量を1990年度比90%削減する

【海外グループ】

主要な海外グループ会社（全9社）についても、国内グループ会社の取り組みに準じて、エネルギー消費原単位およびCO₂排出原単位、水使用原単位、廃棄物埋立原単位のそれぞれについて、2010年度を目標年度とする共通の目標を策定し、具体的な取り組みを始めています。

① エネルギー消費原単位の改善

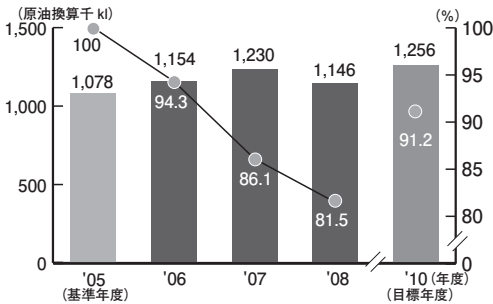
◇目標◇

2010年度のエネルギー消費原単位を、2005年度比8.8%改善する。

◇実績◇

2008年度のエネルギー消費原単位は、2005年度比18.5%の改善となりました。

●エネルギー消費量および同原単位指数の推移



② CO₂排出原単位の改善

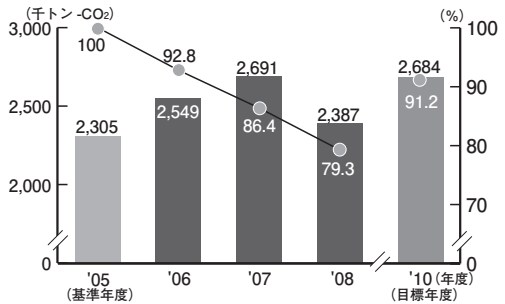
◇目標◇

2010年度のCO₂排出原単位を、2005年度比8.8%改善する。

◇実績◇

2008年度のCO₂排出原単位は、2005年度比20.7%の改善となりました。

●CO₂排出量（エネルギー起源）および同原単位指数の推移



③ 水使用原単位の改善

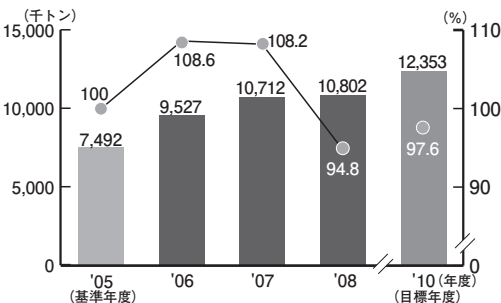
◇目標◇

2010年度の水使用原単位を、2005年度比2.4%改善する。

◇実績◇

2008年度の水使用原単位は、2005年度比5.2%の改善となりました。

●水使用量および同原単位指数の推移



④ 廃棄物埋立原単位の改善

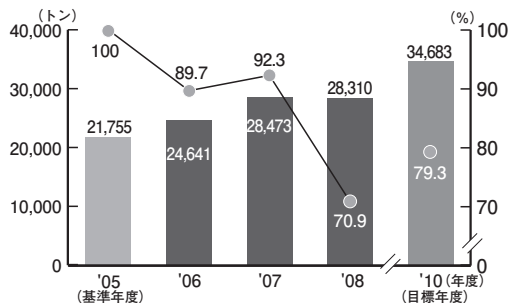
◇目標◇

2010年度の廃棄物埋立原単位を、2002年度比20.7%改善する。

◇実績◇

2008年度の廃棄物埋立原単位は、2005年度比29.1%の改善となりました。

●廃棄物埋立量および同原単位指数の推移



※集計対象の海外グループ会社は以下の9社。
 Sumitomo Chemical Singapore Pte Ltd.,
 Petrochemical Corporation of Singapore (Pte) Ltd.,
 The Polyolefin Company (Singapore) Pte. Ltd.,
 Sumipex (Thailand) Co., Ltd.,
 Bara Chemical Co., Ltd.,
 Dalian Sumika Chemphy Chemical Co., Ltd.,
 SC Enviro Agro India Private Ltd.,
 Sumika Technology Co., Ltd.,
 Dongwoo Fine-Chem Co., Ltd.

※過年度のデータは、精度向上を図り全面的に修正した。



住友化学では、全工場で「環境・安全レポート」を作成しています。

詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

住友化学（株）愛媛工場 総務部

〒792-8521 愛媛県新居浜市惣開町5-1 ■TEL.0897-37-1711 ■FAX 0897-37-4161

住友化学（株）千葉工場 総務部

〒299-0195 千葉県市原市姉崎海岸 ■TEL.0436-61-1313 ■FAX 0436-61-2229

住友化学（株）大阪工場（春日出）総務部

〒554-8558 大阪市此花区春日出中3-1-98 ■TEL.06-6466-5022 ■FAX 06-6466-5460

住友化学（株）大江工場 総務部

〒792-0015 愛媛県新居浜市大江町1-1 ■TEL.0897-37-1800 ■FAX 0897-37-1158

住友化学（株）大分工場 総務部

〒870-0106 大分県大分市大字鶴崎2200 ■TEL.097-523-1111 ■FAX 097-523-1121

住友化学（株）三沢工場 総務部

〒033-0022 青森県三沢市大字三沢字淋代平 ■TEL.0176-54-2111 ■FAX 0176-54-2163

※大阪工場（歌島）、大阪工場（岐阜プラント）、大阪工場（岡山プラント）分については、大阪工場（春日出）にお問い合わせください。

※大江工場は、2009年4月、情報電子機器部材を生産する工場として愛媛工場から独立しました。その関係で、工場独自の「環境・安全レポート」の作成は2010年以降の開始を予定しています。

